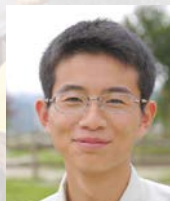


農産物とひまわりを通して 地域とのつながりを深める

紹介してくれた生徒



わだ あやか さん
3年生



おがわ こうへい くん
3年生

自分で作った野菜だから
自信を持って勧められる

「自分が作った思い入れのある野菜を買ってもらえた時が、一番嬉しい瞬間です」と目を輝かせて話すのは、地球環境システム科三年生の和多彩華さん。園芸を専攻し、野菜などを作りながら、作った農産物の販売もこなす。

嘉穂総合高校では、町内のイベントや「とれたて村」など、様々な場面で、校内で作られた農産物や加工品などの販売を行っている。

販売会では、訪れたお客さんと積極的に会話して商品をお勧めする。「自分たちが作った野菜を自分たちが売るので、自信をもって安全と信頼を勧めることができます」という和多さん。

日々の授業について聞く

と、「ほとんどが実習です」という答え。「種まきや除草、追肥などやることはたくさんありますけど、自分の体を動かしてやることはかなりなのでとても楽しいです」

農作物づくり
作製意欲の源は「好奇心」

地球環境システム科を選んだ理由を「食べることが好きだから」と話す和多さんは、現在、トウガラシの生育に力を入れている。万願寺トウガラシやハバネロなどを育て、販売も検討するなど意欲を示す。

和多さんのその意欲の源はなんなのだろうか。

「好奇心です。珍しい野菜をもっと作りたい、という気持ちですね」と笑顔で話す和多さんにこれからやりたいことを聞いてみた。

「国外で作られているものや、色違いの野菜をもっと作りたいです。そういったいろんな野菜を作って、販売会などを通じてみんなにおいしく食べてほしいです」

今後の農産物販売の予定

⇒古代の謎フェスティバル 2014 本祭

10月19日(日) 王塚装飾古墳館前

⇒「とれたて村」販売会

10月31日(金) 農産物直売所「とれたて村」

⇒嘉穂総合高校文化祭

11月8日(土) 嘉穂総合高校内

※売り切れの際はご了承ください



1 販売会はいつも盛況。加工品の一番人気は、あまおうで作られた「いちごジャム」。



2 地域の園児たちを招き、サツマイモの苗植えから収穫までの体験農業も行っている。



3